

「できるADLの発見・開発」と「しているADLの発展・維持」

- 病院の機能
1. 回復期リハビリテーション（脳血管障害・骨折・廃用症候群）
 2. 医療療養型病床・・・1) 難病・医療処置の多い患者の療養（看取りを含む）
2) 在宅療養への支援：①レスパイト目的としたショートステイ
②難病患者のパワーアップステイ（2ヶ月）
③転倒予防・軽介護量へのパワーアップステイ

地域における役割は？

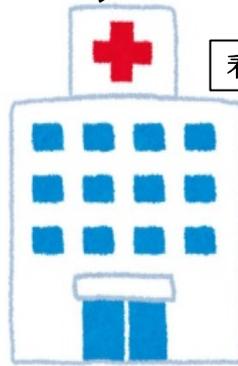
- ※急性期病院と地域の間として在宅療養・社会復帰へつなぐ病院。
- ※元気教室・パーキンソン外来・腰痛教室を町役場と協働し地域住民健康意識の向上を図る

病院の理念

回復する喜びと満足を共に分かち合え、患者様の心と体を共にリハビリできる病院

看護部の理念

専門職としての誇りを抱き、患者様の生きる力・意欲を高めるよう、「こころ・技」をもって支えます。



私たちは

こんな看護師を育てたい!!

一人では何もできないことを自覚し、他者との協働の中で「自分にできること・自分の役割・責任」を考え、成果が得られるよう活動する。

人が好き

意見を聴く・伝える力がある
他者に関心を寄せる。
論理的に考える。
判断・行動力がある。
客観的に自分を見つめる。



- ・挨拶の必要性を理解し正しくできる。
- ・看護師の役割について考え続ける。
- ・チームの一員として自分の存在を確認できる。
- ・周囲への協調性がある。
- ・看護師の責務を認識している。
- ・基本に基づいた看護技術が安全に提供できる
- ・意図的・客観的に観察できる
- ・情報の関連性を考える
- ・「協力・HELP」の必要性を判断し言える
- ・解らないことはそのままにせず、解決するよう努力する
- ・自分の行動を振り返り、フィードバックする。

1年後の目標は、

- ★ 看護実践のなかで「考える・報告する・連絡する・相談する」ができる。
- ★ 聴く・伝えることの必要性が理解できる社会人として当たり前のことが当たり前のようになれる。

新人教育

1年後の目標

- ★ 看護実践のなかで「考える・報告する・連絡する・相談する」ができる。
- ★ 聴く・伝えることの必要性が理解できる
- ★ 社会人として当たり前のことが当たり前ができる。(挨拶・マナー・協調性・責任感)



	採用時 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
基礎知識 (講義)	看護記録 老年看護 褥創ケア 認知症 安全管理 感染管理			各病棟でフォロー 経管栄養と脱水の管理 医療安全講習回(年2回) 感染対策講習(年2回)									記録研修会
基礎技術 (演習)	急変時の対応 患者の移動・移乗 日常生活援助 口腔ケア・採血 清拭・導尿	新卒者は 関連病院での研修も実施 チェックリスト評価とともに ステップアップ											
社会人能力	接 遇 コミュニケーション チーム医療		チーム登山	振り返り① リハビリ見学						振り返り ②			振り返り ③
チェックリスト評価	自己評価 他者評価	1ヶ月		3ヶ月	3ヶ月		6ヶ月	6ヶ月					1年 1年